

第 1 回検討会での議論の整理

1 主な意見

1. 前回在り方検討会では、商工中金に対して、完全民営化に向けて全面注力し、これが出来なければ市場から退出してもらとういう厳しい宿題を提示。評価委員会において 4 年間徹底検証を行い、商工中金はこの宿題に「合格」したと評価。
2. 商工中金は、この 4 年間の努力の結果、ビジネスモデル転換型の民営化を実行できる体制を整備。
3. 過去の不祥事が再び生じないような、しっかりとしたガバナンスの仕組みを構築することが必要。
4. 民間金融機関が取りにくいリスクをしっかりと取って、ベンチャーや中小企業を支援し、そこから然るべきリターンを取る、といったことを今後やるべき事の柱に据えるべき。危機対応業務については、民間金融機関も幅広く参加できる体制を整えていくべきだが、事務の煩雑さやシステム対応などがネックになっているのも事実。今後どう着地させるか十分検討していくことが必要。
5. 不祥事前の商工中金は、国の支援を背景に上から目線の印象。地域金融機関も商工中金をライバル視しており、協調することはほとんどなかった。関根社長体制下で、商工中金のスタンスは改善。地域金融機関も商工中金との連携を求めるようになった。
6. 中小企業専門金融機関として、中小企業の一層役立つために、再生・事業承継・スタートアップ支援等において、業務範囲の制約の見直しが必要。

2 商工中金に対する期待・要望

1. 株主資格制限、組合と構成員のための金融機関の役割維持
2. 危機対応業務の継続
3. 財務基盤を確保するため、特別準備金の維持
4. 信用格付け、調達コストの維持
5. 日本公庫や民間金融機関との差別化、コンサルとは異なる金融機能を持ったアドバイスの継続・強化
6. 事業性評価に基づくスタートアップ支援、経営改善・再生支援の継続・強化